

TNTmips 2013 新機能の概要

TNTmips 2013 の 150 に及ぶ新機能については以下をご覧ください。
<http://www.microimages.com/documentation/FeatureSummaries/79NF.htm>

TNTmips 2013 の個別の機能に関するテクニカルガイドはこちらをご覧ください。
<http://www.microimages.com/documentation/html/version/2013.htm>

全般に関する新機能

- 24 ビットコンポジットカラー (RGB) 画像のカラー強調機能を提供
(各色のコントラスト、明るさを調節可能)。
- 陰影起伏図やカラー標高図、または両者の組み合わせによる地形レイヤ表示。
- CAD およびシェイプレイヤでダイナミックラベルを表示できるようになりました。
- 双曲線正接方式を使った画像のコントラスト改善。
- ベクタオブジェクトを複数のベクタオブジェクトに分割
(属性値を指定して、出力オブジェクトの名前を付けられます)。
- 度分秒を使用してグリッドを作れます
(座標参照系も指定できます)。

Google Earth

- Web 上の地形タイルセット (ユーザが作成したタイルセットやマイクロイメージ社よりオンラインで提供されているもの) を利用して、Google Earth で表示できる、独自の詳細地形の COLLADA 形式タイルセットを生成できます。
- スナップショットを KMZ ファイルに保存して、Google Earth に表示できます (以前は KML のみのサポートでした)。
- KML タイルセットへエクスポートする時に、図形要素のデータチップも自動的に移行できます
(マウスオーバーの名称表示とバルーン表示情報になります)。

ステレオ表示

- Microimages.com サイトから最適な Web 地形タイルセットを自動選択して地表面立体画像を生成するオプション (任意の座標情報付画像を簡単にステレオで表示できます)。
- 任意の地形レイヤ (ローカルまたはオンラインの DEM や Web 地形タイルセット) を使ってステレオ表示できます。
- 地表面のステレオ表示上で描画編集ツールが使用できます。
- ユーザがステレオ表示した結果のビデオを YouTube で公開できます。

LIDAR ツール

- 分類処理をしていない LAS ファイルの地表ポイントデータの分類
(峡谷、尾根、その他の起伏をとらえて高速に処理します)。
- LAS ファイルの高 / 低ノイズのポイントを分類。
- 全処理で LAS フォーマット V1.4 に対応。

Web 地形タイルセットの利用

- ユーザの DEM、DSM、その他の地形データを Web で使用できる地形タイルセットに変換できます
(もしくは、マイクロイメージサイトの全球地表データを利用)。
- 表示画面に任意の Web 地形タイルセットをデータレイヤとして追加できます
(陰影起伏図、カラー標高図、その両方で表示可能)。
- Web 地形タイルセットを地形レイヤとして使用し画像をステレオ表示に変換できます
(たとえば、Web 地形タイルセットを使ってウェブマップサービスレイヤをステレオ表示できます)。



Google Fusion Tables のサポート

- ベクタ、シェイプ、CAD オブジェクトを Google Fusion Tables に出力できます (ポイント、ラインおよびポリゴンを属性とスタイル付きで移行できます)。
- ユーザの個人的、または Web 上で共有している Fusion Table による主題図を TNT の表示画面にレイヤ表示できます (個人的なテーブルについてはログイン・アカウントが提供されます)。
- Fusion Tables をジオマッシュアップ中の図形レイヤとしてオーバーレイに加えることができます。
- こちらに Fusion Tables によるオーバーレイを使ったジオマッシュアップの簡単な例があります。
www.microimages.com > Geomashup Gallery > Using Google Fusion Tables

ジオマッシュアップ

(Google マップや Google Earth、Bing Maps、Open Layers で適用可能な新機能)

- 大きなベクタ、シェイプや CAD オブジェクトを、ジオマッシュアップ用に高速な KML や SVG 図形タイトルセットに出力できます (各図形要素の属性へアクセス可能)。
- ユーザのジオマッシュアップでウェブマップサービス (WMS) のレイヤをオーバーレイとして使用できます。
- 公開されている任意の (自分自身または他の人による) Google Fusion Table 主題図を属性情報とともにジオマッシュアップ内のオーバーレイとして使用できます (Google は公開 Fusion Tables を検索できるツールを提供しています)。
- ジオマッシュアップ画面で描画、計測し、Fusion Table の要素として保存できます。 (各要素は測定結果、属性、スタイルをもったデータとなります)。
- KML の出力処理では 1 行から構成されるデータタイプを要素名に変換します。ジオマッシュアップでは、マウスオーバーラベルとして使用できます。
- MicroImage 社サイトにはジオマッシュアップの例を多数掲載しておりますのでご覧ください。
www.microimages.com > Geomashup Gallery

(画像) フィーチャマッピング

- 頻繁に使われるツールボタンが最初から表示されたシンプルなツールバー。 (作業方法に合わせてツールバーからアイコンを追加または削除できます)。
- 新しい処理結果レイヤに地物のアウトラインが表示されます。
- ベクタオブジェクトとして地物を保存できます。
- Google Earth で参照可能な KML ファイルとして地物を保存できます。
- プロトタイプ、保護区域、および地物クラス用に統一した "描画" 動作モード。
- ポリゴンに加えて、ラインと四角形、円のエリアを描画できます。
- 描画ツールのラインの太さを設定できます。
- (1 つまたは) 複数の (追加の) 表示画面を開いて比較が可能。

